

## 第 8 5 回 まちづくり塾記録

『銅鏡が語る、古(いにしえ)の遠州』

植松 勇介さん(うえまつ ゆうすけ)静岡産業大学非常勤講師  
平成 21 年 7 月 25 日(土) 13:30 ~ 15:00

現在のガラス製で出来た鏡は明治時代以降、江戸時代までは金属で出来ている、ほとんどが鋳物で、裏側に絵を施し楽しんでいたようです。絵を施した方が裏、写す方が表になります。東洋の鏡は柄の無い鏡が先に普及しました。支柱に穴を開け紐を通し、その紐を持って使用、重いものは吊るして使っていました。しかし西洋の鏡には最初から柄が付いており 11,12 世紀頃中国に入ったのではないかと、日本で柄の付いたものは 13,14 世紀位、鎌倉時代の終わり頃になり、普及したのは室町時代の後半 16 世紀中頃になります。

### 森町の銅鏡(田能八阪神社伝世鏡)

森町に有る田能八阪神社は山奥にしては大きく、拝殿も立派なもので、峠を少し行けば秋葉山に着くルート上に有り、秋葉信仰は平安時代の初め頃からあったと考えられます。蔵泉寺には平安時代後期に遡る仏像が有り、そこから田能地区は信仰の拠点になっていたと思われます。鏡がそこに入って来てもおかしくなく、15 世紀頃から裏に薬師如来が刻まれ、縁や支柱を砥石のような硬いもので削ったのではないかと、その為、森町史では「円形の銅版」と記されており、鏡としては評価されていませんでした。鏡の製作年代は、鶴が松の枝をくわえ反時計回りに絵模様がくるくると回る表現から(松の枝を鶴がくわえる絵柄は 12 世紀位から有る)15 世紀、平安時代の後期位、八阪神社の鏡もその位のものではないかと考えられます。直径 9.9 センチ、厚さ 0.1 センチ、重量 41.2 グラム、鏡の支柱に穴が開けられ、神社の中に吊るされていたのではないかと、と思われます。

### 三ヶ日の鏡(佐久城跡出土鏡)

北区三ヶ日町猪鼻湖辺りの城跡から出土した柄鏡は、裏の真ん中に亀、上に鶴が 2 羽描かれている。直径 8.7 センチ、縁厚 0.5 センチ、重量 138.1 グラム、本体よりも柄の方が長い、(時代が経つにつれ柄が太く短くなる)これは比較的古いものと考えられます。柄鏡の支柱は形だけで(熱田神宮の柄鏡は細工が古く、年号が 1525 年と記されている、柄鏡の中では一番古いもの)城跡から出土したのが興味深い、本丸からではない。佐久城を根城にしていた浜名一族(鎌倉幕府の下家人)は将軍のお側近くに遣え、足利将軍から名前の一文字を頂く程、密接な関係で、文化的にもレベルが高かったと窺える。1568 年徳川家康の圧力により佐久城を明け渡し、1583 年廃城となった。そこから考えると徳川が日常使っていた可能性は少なく、浜名氏に繋がる誰かが(姫様か奥方)使っていたのではないかと考えられます。このような柄鏡は比較的出回っていて骨董屋でも見かけるが製作年代が分かり難い。城跡出土鏡は廃城となった年代がはっきりしている為、製作年代を考える上で基準になる資料、鏡そのものは、あまり良いものではないが、資料的価値は高いと考えています。

### 参考(室町時代)

相阿弥(そうあみ)という人物の記した「御飾記」(おかざりき)という書物に、室町将軍の床飾りを図解した資料の柱に柄鏡を掛けたものがある。この床飾りが現代のお茶席の飾り方の基本になることは無いが、お茶席の床飾りの原型ではないか? 原型の中に柄鏡を飾る、こういう飾り方が室町時代にあった… もしかしたら紐を通して床の間に掛けていたかもしれない。床飾りの道具だったかもしれない…と考えられる。

### Q & A

- Q 田能八阪神社と秋葉街道との関係は? 佐久城、野地城、街道姫街道と鏡の関係、つながりは。  
A おそらく秋葉山へ行く街道筋はひとつの宗教上の拠点であったであろう。峠、境界線上に位置して

いる、境界線上に寺、神社が出来、比較的早い段階から開けていた、秋葉街道との関連性があると思うが直接子因は分からない。

佐久城については猪鼻湖の海上交通網を押さえ、陸上交通も押さえようとする南により過ぎ、同じような地形で陸上に近いところが野地城として選ばれたのではないが、色々な交通網をおさえたい、との考え方からではないか。

Q 鏡が神社に奉納された訳、鏡が御神体になった訳、鏡と牛頭天皇、薬師如来との関係。

A 鏡が神社に奉納された理由については正直分からない。色々なケースが考えられるが、おそらく八阪神社の鏡は加工される前、鏡として存在していた時代、使っていた誰かが神様仏様と縁を結ぶ為に入れられた可能性もある。あるいは遺族が、亡くなった人の使っていた鏡を神様か仏様に入れて水神供養する…考え方もあったかも。お宮に入る理由は一概には言えないが、お宮の中に一回入れて何百年も経つうちに神様という意識が芽生えてくる、鏡に仏様の姿を取り込んで神と仏は一体であるという事かもしれない。奉納理由が文書に書いてあるものも有るが、この鏡については無いのではっきり解らない。日本の神様は基本的に形がなく、何かに宿るもの。鏡は神様のぬしろとして宿りやすく、天照大御神は鏡を自分だと思って拝みなさいとの言い伝え、牛頭天王だから、薬師如来だから鏡という訳ではない。

Q 遠州地方の銅鏡の数、使い方。

A 八阪神社の鏡としては一つだけ、佐久城も柄鏡のみ  
遠州地方とすると かなり有った。使い方として御神体として使う、仏様を収めた天井に入れ信仰する、顔を写すだけではなく色々な使われ方をした。

Q 銅鏡を持っているが見てもらえるか。

A 鑑定は出来ないが後程拝見します。

Q 松、鶴、亀の絵模様、また、反時計廻りはあるのか。

A 鳥を絵にするのは良く採用されるモチーフである、奈良時代は中国文化の影響で鳳凰、平安時代は日本人好みの長寿の象徴である鶴と松に亀が加わる。宗教的背景、思想的背景は難しい。反時計廻りは、もちろんある。

Q 伊勢神宮に鏡はあるのか。

A 有ります、20年毎に人間国宝の方が新しく作り変える。古い物は本来、地面に埋めて処分、または、各神社に配る場合もある、内宮と外宮では形も模様も違う。

Q 当時の鏡の金銭的価値、現代の貨幣価値ではどんなものか。

A 今の金額として表すには難しいが、田能八阪神社時代の物(平安時代)は、非常に高価なもの。平安時代は細々と銅が採掘される時代のため鏡が少ない、古い時代ほど高価で作品は良い。佐久城の頃になると、銅の生産量が上がり安定供給、庶民でもお金を出せば買うことが出来た。

Q オリエント文化との関わりと鏡の関係。

A 日本は海に囲まれていたので異国の文化がなかなか取り入れられなかった。  
直接的に関係は無く、日本の銅鏡の歴史を考える上では考慮しなくてよいのではないかと。

Q 浜松、遠州地方の出土は多いのか少ないのか、又は地方によって違うのか。

A 人の居ない所では出土しない、当時の人口の密集する所に多く、平安時代の京都、奈良、大阪、九州では博多、中世は鎌倉、日本海側が多い、内陸部は少ない。静岡県は比較的多い方ではないかと思う、浅間神社、秋葉神社、三嶋大社、に有るが良いものはない。面白い鏡があり、他の地域に無いものがある。